青年市民会議が姉妹都市の青年と交流

姉妹都市岩沼市と南国市の青年市民会議による、両市のまちづくりについて語るまちづくり研究交流会が、五月二十六日に市役所で開かれ、活発な意見交換が行われました。

岩沼市は、宮城県都の仙台市に隣接し、東北の空の玄関仙台空港を擁する交通の要衝地です。ともに県都に隣接し、空港を持つ市であることから、昭和四十八年七月に姉妹都市提携を行い、交流を図ってきましたが、議会、ライオンズクラブなどの交流にとどまっていました。

そこで、市民レベルの姉妹都市交流を見直そうと、この両市青年市民会議の交流会が、三十周年記念事業の一環として開かれました。

岩沼市青年市民会議は、市政に青年の意見を反映させようと六十二年に発足。市政の勉強を終え、今年三月に市長に対して「第一回中間提言書」を提出しています。南国市青年市民会議も、この四月に同じような目的で、地域や職場で中心となって活躍している青年二十七人で組織されました。

岩沼市青年市民会議の一行二十二人は二十六日の午後に市役所入りし、市の概要説明を受けたり、班別研修などを行った後、南国市青年市民会議のメンバーと意見交換。

その後空港会館に移動して交歓会を行い、郷土芸能を披露し合うなどの和やかな雰囲気の中で、今後の交流を誓い合っていました。

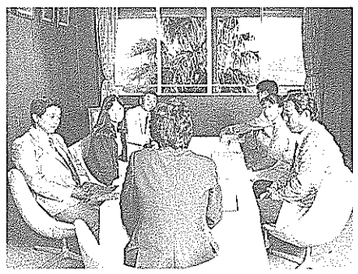
翌日の二十七日は、前日の意見交換を踏まえて施設園芸や空港などを視察。空港の近くのほ場では減農薬の取り組みに関心を示すなど、熱心に質問していました。

座談会 青年市民会議とは

出席者

○岩沼市青年市民会議
会長　小斎慶吉
副会長　山下孝明
　　太田ひろ美

○南国市青年市民会議
会長　末政隆一
副会長　山本桂
　　神田由香



交流会の際に、両会議の役員が座談会を開催。青年市民会議とはどうあるべきかについて話し合いが行われました。

夢を実現させるために

小斎　私たちは中間提言書を作る段階で、夢のあるまちづくりを考えていくのが我々青年に課せられた課題ではないかと考えました。そして、最終的には、人間性豊かな心で未来をはぐくむまち、成熟された健康で未来福祉づくりのまち、歴史文化教養で幸せを広げるまち、未来へ開くまち、そのようなヒューマンシティ岩沼をつくり上げるまちづくりをしてもらいたいという中間提言書になりました。

末政　私たちの青年市民会議はまだ四月にできたばかりで、これを機会に自分たちの立場を認識し、南国市の市民会議にふさわしい提言をしたいと考えています。

司会　今後の南国市の会議の方向、しなければならないことなどはありますか。

神田　まず市政の勉強をしなければならないと考えています。

小斎　それは若干しなければなりません。市政の勉強ばかりやって「死んだ会議」ではないかという批判も受けましたが、そういう勉強をした上での提言であればなおすばらしい提言になるのではないでしょうか。また、実現可能なことを提言するだけでなく、青年としての夢を実現させるのが本当ではないか、ではどうしたらできるのかということが、これから若い人が考えなければならないことだと思います。

神田　夢を実現させるための問題点を解決するような市政の勉強であったらおもしろいということですね。

小斎　批判が全体会の中でたくさん出てきました。執行部としては大変つらかったと思います

が、それをこらえて説明してくれて応援し、私たちが言ったことを市役所で取り上げてやってくれました。その点私たちは恵まれていたと思います。宮城県でも一つだけの青年市民会議なのですが、ほかの町でも作ろうという気運が出てきたことが感じられます。ここまで来るのには並大低ではなかったですが。

住みよいまちづくりのたたき台に

末政　私たちもすぐに軌道に乗るとは思っていません。南国市の青年市民会議の人たちは、言ってもむだだというのが大部分を占めていたのではないかと思います。それを言わなければ変わらない、変わるためには何か組織を持って意見を言わなければならないという方向で進めていますが、まだまだ団結というところまでいきません。

小斎　批判の上に立って何かやろうというのがこれからのあり方だと思います。夢物語は遊びだといわれるかもしれませんが、夢の中から出てきたものが現実になって、一つでも二つでも取り入れられれば住みよいまちになるのではないかと考えます。私たちは行政権もなく、予算面では関係できないわけで、それについては議員の皆さんにやってもらえるのではないか、その一つのたたき台になればいいのではないかと思っています。

末政　岩沼市の中間提言書について話し合っている中で、皆さんは本当に夢の発想ができるということに感動しました。自分たちも夢を持たなければいけないのではないか、そのためには現状を一応把握しなければ夢のかけらも思い浮かばないのではないか、現状を把握しながら市全体について提言していこうではないかという話になりました。

山下　岩沼も通過地点で、行政の問題にしても、何かにつけて中途半端だという思いがしょっちゅう出てきます。そのような中で何とか意見を言う場が欲しいということで参加された方が多いのではないかと思います。

小斎　また、委員の皆さんは、

私たちの夢が未来へのまちづくりにつながる

根っから岩沼市が好きなのです。それで岩沼市を何とかしたい、そして自分たちの子供たちにその岩沼市を継いでもらいたいという希望があるのではないでしょうか。この会が成り立ったのは郷土愛が一番根底にあるのではないかと思います。

太田　岩沼に住んで、主婦であり、母親であると世間が狭かったのですが、市民会議に恐る恐る出てみて、岩沼市の中にもいろんな人たちがいたのだなと感じ、それがうれしかったです。今はいくら施設を整えても最後は人だという考えでいます。病院や施設を作るのは行政の仕事でとても大切なことなのですが、既存の施設でもうまく利用していないものもたくさんあり、私たちがユニークな利用法を考えたらいいのではないでしょうか。また、テレビとか雑誌とかの情報はたくさんありますが、自分の町の情報はすごく少ないし、横のつながりも少ないですね。

これからはそういうまちの情報を増やして、いつでも使えるようになったら住みやすいだろうなと思っています。

司会　今情報化社会と言われていますが、そうなるほど細かい情報が増えてきて、細かい集団に、そこからまた情報が出てきてというふうになってきています。そういう意味では、青年市民会議のような総体的な、枠を作らない集団が情報発信の場になっていったらそれも実現するような気がします。

市民とともに

末政　我々はこれを転機にかなり変わった発想をしなければならないと思います。

小斎　まちづくりは人づくりから、発想は若い人からです。いろいろ意見を出してもらうようにすることです。三十人集まれば三十の意見が出てきます。

末政　一番不安に思っているのは、私たちの提言を行政がどこまで取り入れてくれるのかということです。

小斎　その解決方法は、市民を味方にすることです。そうすれば行政は動きます。私たちは市民との結び付きが強く、委員のつきあいの中で市民もいろいろと批判してくれました。

山本　市民に自分たちの存在をアピールしていかなければなりませんね。

小斎　私たちは新聞や広報を通してPRしてもらいました。この後すぐ市民を交えたシンポジウムも計画しています。ある程度アピールしないと誤解をまねくことにもなるので、たいせつなことですね。